

スクールカウンセラー

中谷じいやのつぶやき



2022年7月号 続編

石川県立小松高等学校教育相談室



「じいやのつぶやき」 続編です！

今回はなにやら「尻切れトンボ」のようになってしまい、申し訳ありませんでした。
紙面の関係上、あそこで切らざるを得なかったのご迷惑をおかけしたかと存じます。

「じゃあ、どうすればいいんだ？」とお考えになったことだと思います。

「でもね」や「それは君にも…」はその時に返すのではなく、ちょっと時間を置いてから投げかけてみてください。こうすると「親はあの事をずっと考えていてくれたんだ」に変わるんです。
話を聴き終わったか終わらないうちに「でもね」や「それは君にも…」だと、頭ごなしとほとんど変わらない受け止め方をされてしまいます。「なんだ、聴いてくれなかったじゃないか」「やっぱり聴いてくれてない」になるので、これもったいないと思われませんか？

もっと云うと

「それは君にも…」や「でもね」のあと、「君は…」になりやすいでしょう？

これを変えて

「そんなやり方だと【別の人格である「わたし=親」は】こう受け止めるけどな、どう思う？」

つまり主語が違うんです。



「君は…」ではなく、

「一人の人間としてわたしはこう思う(感じる・考える・受け止める)んだけどな」と

「こちら側」を主語にするのです。

こうすると「こちら側の意見」になります。「君は…」だと子どもからすれば「決めつけられた」様に思いがちですから。余計な摩擦は避けましょう。

こちら側の云う事を聞かせようと思わないで欲しいのです。これは誰にやってもうまく行かないはずですよ。あくまでも「こちら側の意見(思い・考え・受け止め)」を伝えてください。

これなら会話になりますが、「云う事を聴け！」だと会話になるでしょうか？

これだと「指示・命令」です。仕事でもそうじゃないですか？ 命令されるよりお願いされる方がこちらでも動きやすいでしょう？ お願いされると「今はこれで手いっぱいだから、この後で大丈夫ですか？」などと交渉できますよね？
そこを大事になさってください。かくいう私だって失敗から学んだんです。

